

学校における食育の推進

—各教科等における食育の推進に関する考察を通して—

教職員研修課 竹内 寛泰 横畠亜希子 亀田 佳子 上萩 琴美
井上 史朗 宮本 浩子 吉本 憲司 福田 幸司

要 旨

食に関する問題を解決するためには、子どもの頃から食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることが重要であり、学校における食育の推進は喫緊の課題である。そこで、食育の推進についての考察を加えた実践事例を示すことにより、各学校における食育全体計画の作成や実践の充実につながり、食育の一層の推進に資することができると考えた。

キーワード：学校における食育の推進，食育全体計画，各教科等，実践事例

I はじめに

近年、食生活を取り巻く社会環境の変化とともに、我々の食をめぐる問題はますます大きくなっており、国を挙げて食育に取り組むとともに、子どもの頃から食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることが必要である。学校においては、食育を推進することが喫緊の課題となっているものの、学校や教師によって、温度差が生じている現状がある。

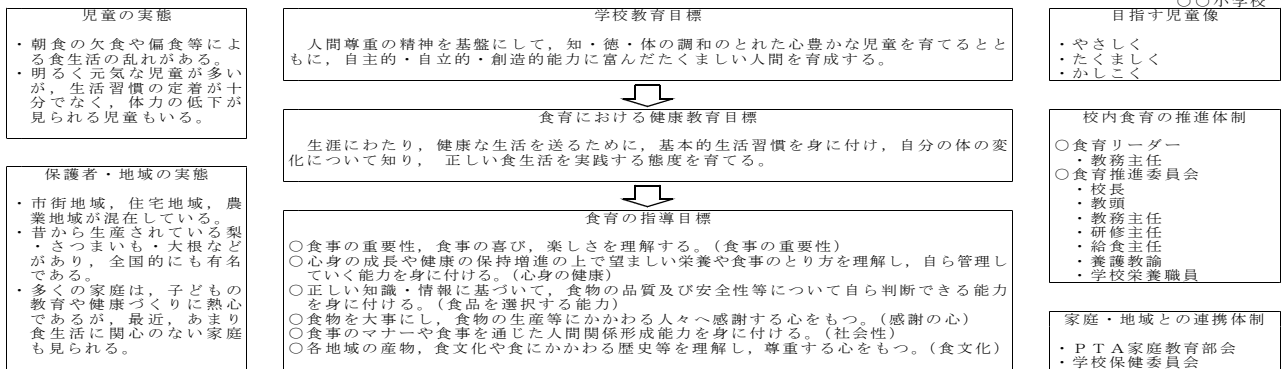
II 「食育の視点」を意識した各教科等の実践と食育の推進について

徳島県教育委員会では、平成20年に「徳島県学校食育指導プラン す・だ・ち」を策定し、学校における食育を推進してきた。この指導プランの中には、食育全体計画の標準モデルを示しており、各学校においては、この指導プランを参考に食育全体計画を作成し、学校教育全体で食育の推進に取り組んでいる。このことにより、食育と関連の深い教科等においては、指導者が意識して実践することができる反面、比較的関連性が低いと考えられる教科等においては明確な意識をもちにくい現状がある。参考となる実践例も多いとは言えない。しかし、各教科等と「食に関する指導の内容」を照らし合わせてみると、これまで実践してきた領域・単元・題材等以外にも、食育と関連した内容が多くある。指導者が「食育の視点」を意識し、共通理解を図りながら各教科等の授業を実践することにより、学校教育全体を通じた組織的な食育の取組が実践できると考えられる。

そこで、当センター教職員研修課では、教科等における内容を標準モデルの中に盛り込み、全体計画の一例を見直した。これらを次ページからの「小学校食育全体計画（例）」及び「中学校食育全体計画（例）」に示している。さらに、各教科等における指導内容が「食に関する指導の手引き—第一次改訂版—」（平成22年3月文部科学省）に示されている「食に関する指導の内容」とどのような関連があるのか、また、食育との関連を図ることのできる領域・単元・題材等についての考察及びその実践事例を、「Ⅲ 各教科等における食育の推進について」において示している。なお、取り上げた実践事例については、全体計画（例）の中では、ゴシック体で表している。

学校における食育は、小・中学校の9年間を見通して推進することでより効果が上がる。そこで、小学校及び中学校の食育全体計画（例）を示すとともに、今回取り上げた教科等のうち、理科、外国語活動・英語、音楽、図画工作・美術については、小学校及び中学校の観点からもそれぞれ考察を加え、小・中学校の9年間を見通した食育の実践につながるよう工夫している。

小学校食育全体計画（例）



	各学年の発達段階に応じた食育の到達目標			
	低学年	中学年	高学年	
幼稚園・保育所	○食べ物に興味・関心をもち、楽しく食事ができる。 ○好き嫌いせずに食べようとする。 ○食品の名前がわかる。 ○食事を作ってくれた人に感謝する。 ○正しいはしの使い方や食器の並べ方がわかる。 ○身近な土地でとれた食べ物がわかる。	○三食規則正しく食事をとることの大切さがわかる。 ○好き嫌いをなく食べることができる。 ○いろいろな料理の名前がわかる。 ○生産者や自然の恵みに感謝し食べることができる。 ○食事のマナーを考えて楽しく食事ができる。 ○季節や行事にちなんだ食事があることがわかる。	○朝食をとることの大切さを理解し習慣化している。 ○食品の三つの働きがわかる。バランスのとれた食事の大切さがわかる。 ○食品の安全・衛生に気をつけて簡単な調理をすることができる。 ○食事に間わる人や自然の恵みに感謝し残さず食べることができるようにする。 ○楽しい食事を通して相手を思いやる気持ちをもつことができる。 ○食文化や食品の生産流通消費について理解を深める。	中学校

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
教科	国語	・おおきなかぶ ・サラダでげんき ・おもい出しかこう ・「おべんとうづくり」 ・ことばあそびうたをつくらう「たべもの」 （東京書籍）	・かんさつしたことをかこう ・「やさいのなえ」 ・「ありがとう」をつたえよう ・名人をしようかゝいしよう ・「パン作り名人」 ・おばあちゃんに聞いたよ ・「七草がゆ」 ・あなごやくわし ・「しょうやくし」「おろしがら」 ・「なべのふた」他 ・くらべてみると ・「なしとりんご」 ・かんさつ名人になろう ・「ミニトマト」 ・おおきくなあれ ・きせつのはらばい等 ・見たこと、感じたことを詩「もやし」「きゅうり」	・ゆうすず料理の小さな旅館 ・「ほけんだより」を読み比べよう ・「朝ごはん」をしっかりと食べよう ・心にとったことを「はじめてのおはきづくり」	・メモの取り方をくふうして聞こう ・「梅ぼしの作り方」 ・クラスで話し合おう ・「給食週間に調理員さんへ感謝や気持ちを伝えるために何をするのか」 ・くらしの中の和と洋 ・報告します、みんなの生活「わたしたちの、食生活」 ・一つの花	・和の文化について調べよう ・一場を決めて討論をしよう ・「論議 校外学習で飲み物を持って行くときは、水とどうつかうべきか」 ・新聞記事を読み比べよう ・しさを上げる『江戸前アユ』 ・「よみがえった『アユの川』」	・海のいのち ・プロフェッショナルたちの「パティシエ 杉野英美の仕事」
	社会	・くぼし ・「おすずびころん」 ・おおきなかぶ ・もののなまえ （光村図書）		・学校のまわり ・〇〇市ガイドマップ ・スーパーマーケットではたらく人 ・農家の仕事 ・たねをまこう	・ごみのしよりと利用 ・のこしたいものつたえたいもの ・わたしたちの徳島県 ・伝統工芸 ・春のしぜん ・秋のしぜん	・わたしたちの生活と食料生産 ・これからの食料生産とわたしたち ・植物の発芽と成長	・戦争中の人々の生活 ・ヒトや動物の体 ・生物とかんきょう ・自然とともに生きる
	理科						
	生活	・がっこうたんけん ・しごとめいじんにおしえてもらおう	・それいけたんけんたい ・ぐんぐんのびやさいくん ・大きくなったわたし ・自分とかなぞくの1日	・茶つみ ・おかしのすきなまほう使い ・十五夜さんのもちつき ・にこにこべんとうペタンコランチ			
	音楽	・わくわくキッチン ・ポポポップコーン ・フルーツケーキ ・うれしひなまつり ・ごちそうパーティーをはじめよう	・クリスマスソングメドレー ・ややおのおみせ ・かぼちゃ		・みかんの花さくまわ ・ソーラン節	・こいのぼり	・地域に伝わる民謡
	図画工作						
	家庭					・作っておいしく食べよう ・家族とのふれあいを楽しもう	・生活を見直そう ・楽しい「食事」をくふうしよう ・地域とのつながりを広げよう ・病気の予防
道徳		・りすとひまわり ・ありがとう ・げんきな子	・サラダづくり ・くりのみ ・ハムスターの赤ちゃん	・いきいきするし ・ホームステイ	・家族		
	外国語活動					・I like apples. ・What's this? ・What would you like? ・ふるさとじまん ・菓子の作り ・食の安全について調べよう	・When is your birthday? ・Let's go to Italy.
総合的な学習の時間				・校区探検発表会 ・〇〇金時 ・さつまいもを食べよう	・人にやさしい町(栄養のバランスを考えた食事) ・人にやさしい町(栄養のあるおやつ)		
特別活動	学級活動	・給食の約束 ・給食を知ろう ・朝ごはんを食べよう		・食べ物3つの働き ・健康にいい食事について考えよう ・朝ごはんを食べよう		・運動と健康 ・心と体の成長をふりかえろう	地場産物の活用等（県内産）
	給食	・給食を知ろう ・仲良く食べよう		・食品について知ろう ・きまりを覚えよう ・地場産物を知ろう		・食品や献立について知ろう ・楽しい給食時間しよう	米・牛肉（通年） 人参・玉ねぎ さつまいも・柿 オクラ・わかめ・スダチ・カボチャ だいこん・キャベツ・れんこん
	生活	・食べ物の名前を知ろう ・好き嫌いせずに食べよう		・食べ物の働きを知ろう ・好き嫌いを楽しく食べよう		・食べ物と健康について知ろう ・感謝して食べよう	
	時間	・食べ物に関心をもとう ・食べ物を大切にしよう		・食べ物3つの働きについて知ろう ・食べ物を大切にしよう			
	運動	・いろいろな食べ物の名前がわかったか、ふりかえろう ・給食の反省をしよう		・食べ方をふりかえろう ・給食の反省をしよう		・食生活を見直そう ・1年間の給食をふりかえろう	ほうれんそう 白菜・わかめ ブロッコリー
	児童会活動	・1年生を迎える会	・夏の集い ・冬の集い	・給食委員会 ・6年生をたのむ会			
	クラブ活動						
	学校行事	・定期健康診断 ・学習発表会	・身体測定 ・運動会 ・冬休み	・修学旅行 ・食育月間 ・学校給食週間	・宿泊訓練 ・遠足 ・個人懇談 ・夏休み ・チャレンジ教室		
	家庭・地域との連携	・給食だより ・食に関する講演会の実施 ・食育アレルギー個別対応	・学年・学級だより ・JAとの共同による農作業体験教室 ・肥満傾向のある児童への指導	・保健だより ・給食試食会 ・家庭食育学級 ・親子料理教室開催 ・学校保健委員会			
	個別相談指導						

中学校食育全体計画（例）

〇〇中学校

生徒の実態
- 一部の生徒に生活リズムの乱れや栄養の偏りといった問題が見られる。 - 朝食の欠食が見られ、朝食の摂り方も少ない。 - 給食の残量が多く、食事のマナーも十分とはいえない。

学校教育目標
人権を尊重し、「生命を尊重する心」・「他者への思いやりの心」・「美しいものに感動する心」をもち、知・徳・体の調和のとれた人格の形成及びこれからの変化の激しい社会に対応できる「生きる力」を形成し、一人ひとりに応じた教育の実現を目指す。

目指す生徒像
- 人権を尊重し、情操豊かな生徒 - 思いやりの心をもち、自他の生命を尊重し、ともに支え合う生徒 - 心身ともに健康で、たくましい生徒

保護者・地域の実態
- 保護者の教育への関心は高く、協力的であり、PTA活動にも熱心である。 - 校区には共働きの家庭が多く、食事作りに時間をかけられなかったり、食事の時間が決まっていなかったりする状況が見られる。 - アンケートによると、夕食をひとりで食べている生徒が1割程度いる。 - コンビニエンスストアやファーストフード店が身近にあり、生徒たちが気軽に利用できる環境がある。

食育における健康教育目標
生涯にわたり、健康な生活を送るために、基本的生活習慣を身に付け、自分の体の変化について知り、正しい食生活を実践する態度を育てる。

校内食育の推進体制
〇食育リーダー ・給食主任 〇食育推進委員会 ・校長・教頭 ・教務主任 ・学年主任 ・研修主任 ・家庭科主任 ・保健体育科主任 ・総合的な学習の時間担当主任 ・養護教諭 ・栄養教諭（学校栄養職員）

食育の指導目標
〇食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。（食事の重要性） 〇心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。（心身の健康） 〇正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。（食品を選択する能力） 〇食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。（感謝の心） 〇食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。（社会性） 〇各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。（食文化）

家庭・地域との連携体制
・PTA家庭教育部会 ・学校保健委員会

幼稚園・保育所	小学	学校	各学年の発達段階に応じた食育の到達目標		
			1 年	2 年	3 年
			・食事の果たす役割や健康と食事の関わりを知り、中学生期の栄養の摂り方が理解できる。 ・楽しい食事や給食活動を通して望ましい人間関係を築こうとする。 ・食品の品質・安全性について判断し、適切な取扱いができる。	・生涯の健康は中学生期の食生活の在り方に左右されることを理解し、望ましい食習慣を身に付ける。 ・生産者や自然の恵みに感謝し、食の大切さを理解する。 ・食事のマナーを守り、楽しい食事を通して望ましい人間関係を築こうとする。	・生涯にわたっていきいきとした食生活を送るために、日常の食事を通して自己管理能力を身に付ける。 ・地域の産物や食文化を理解し、尊重する心を育む。 ・会食に関心をもち、楽しい食事を通して望ましい人間関係を築こうとする。

		1 年	2 年	3 年	特別支援学校
教	社 会	(地理的分野) (2)地域の規模に応じた調査 農作物の生産に関する地域調査 (歴史的分野) (1)歴史の流れと地域の歴史 ・食生活の変化	(地理的分野) (3)世界と比べてみた日本 ・我が国の食料生産 ・日本各地の特色ある生活文化 ・他地域との結びつき	(公民的内容) (1)現代社会と私たちの生活 ・私たちの生活の変化 (2)国民生活と経済 ・市場経済の基本的な考え方 ・国民生活の向上と消費者の保護	学 習 内 容 に 準 ず る 学 年 の
	理 科	第2分野(1)植物の生活と種類	第2分野(3)動物の生活と種類 ・生命を維持するはたらき	第2分野(7)自然と人間	
	音 楽	・赤とんぼ ・箏曲 六段の調べ	・歌舞伎 勧進帳 ・世界の諸民族の音楽		
	美 術	・セラミックスでリラックス生活 ～陶器で豊かな日々を～	・We! 菓子をしよう		
	保健体育 (保健分野)	(1)心身の発達と心の健康 ・体の発育・発達 ・成長曲線	(2)健康と環境 ・水とわたしたちの生活	(4)健康な生活と病気の予防 ・食生活と健康 ・生活習慣病とその予防	
科	技術・家庭 (技術分野)	C 生物育成に関する技術 ・おでんに通じたダイコンをつくろう。(1回目)	C 生物育成に関する技術 ・おでんに通じたダイコンをつくろう。(2回目)		学 習 内 容 に 準 ず る 学 年 の
	(家庭分野)	B 食生活と自立 (1)中学生の食生活と栄養 (2)日常食の献立と食品の選び方 (3)日常食の調理と地域の食文化	D 身近な消費生活と環境 (1)家庭生活と消費 (2)家庭生活と環境	A 家族・家庭と子どもの成長 (2)家庭と家族関係 (3)幼児の生活と家族	
	外 国 語	・世界の朝食 ・国際フードフェスティバル	・Homestay in the United States ・町紹介 ・買い物（ハンバーガーを注文する）	・文化紹介 ・食事の会話 ・レストランで ・英語で料理 ・Sushi -Go- Around in the World ・英語で茶道	
道 徳		食を通して、まわりの人や地域・社会とのつながりについて考え、自らのよりよい生き方を求めていることとする態度を養う。			
総合的な学習 の時間		(福祉・健康) 「生活習慣を見直そう」 ・食生活を考えよう（朝食・間食・給食） ・汗と水分補給 ・食事と運動 ・阿波踊り体験 ・啓発リーフレット作り	(人権・平和) 「いのちの尊さについて考えよう」	(進路・職業) 「職場体験をしよう」 ・農業体験 ・食料の流通に関わる仕事	交 流 し て い る 学 年 の 学 習 内 容 に 準 ず る
特 別 活 動	学級活動 				

Ⅲ 各教科等における食育の推進について

1 小学校国語

(1) 小学校国語科における食育の推進

国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」ことである。この目標を達成するためには、子どもたちの生活と密接に結び付いた題材が重要になる。食をテーマにした国語教科書の題材は豊かで、子どもたちの興味や関心を引き付けるものが多い。また、食育の指導目標の〔食文化〕〔社会性〕〔感謝の心〕〔食事の重要性〕などと密接に関わる内容が取り上げられている。この食に関する題材を単元を貫く言語活動を展開する過程で活用することによって、国語の「読むこと」の目標を実現させるとともに、食に対する理解や関心を深めることができる。

(2) 食育との関連が図れる領域・単元・題材等

教科書では、食をテーマとした多くの教材が取り上げられている。その一例を示す。

①領域「話すこと・聞くこと」

単元名「すいせんします」（光村図書5年）話題：特産物を使った料理など

収集した知識や情報を関係付けて、目的や意図に応じた話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す過程で、食育の指導目標の〔食文化〕〔社会性〕〔感謝の心〕についての関心や理解を深める。

②領域「書くこと」

単元名「ふるさとの良さをしょうかいしよう」（東京書籍6年）題材：地域の特産物

ふるさとの良さを表現するために、複数の事例や根拠を挙げたり、書き出しや見出しを工夫したりして書く過程で、食育の指導目標の〔食文化〕〔社会性〕についての関心や理解を深める。

③領域「読むこと」（「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の領域と関連させたものもある）

単元名『『おはなしキラリボックス』でわたしのキラリをしょうかいしよう』

教材文「サラダで げんき」（東京書籍1年）

誰がどんなことをしたかを、場面ごとに読む過程で、食育の指導目標の〔心身の健康〕〔食品を選択する能力〕についての関心や理解を深める。

単元名「おすすめの宮沢賢治作品をショーウィンドウで紹介しよう」

教材文「やまなし」「イーハトーブの夢」（光村図書6年）ほか

場面についての描写を捉え、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめる過程で、食育の指導目標の〔感謝の心〕についての関心や理解を深める。

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

単元名「おばあちゃんに聞いたよ」（東京書籍2年）話題 七草がゆなど

昔から伝わるいろいろな言い方について知り、言葉の響きやリズムのよさを体感する過程で、食育の指導目標の〔食文化〕〔心身の健康〕についての関心や理解を深める。

(3) 実践事例

○単 元 名 食べ物変身ブックを作ろう

教材「すがたを変える大豆」「食べ物のひみつを教えます」

○単元の目標

- ・すがたを変える食べ物（食品の加工）について、疑問や課題を明確にしながら調べようとしたり、調べて分かったことを報告する文章に書き表したいという思いを膨らませて書こうとしたりすることができる。
- ・中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。（読(1)イ）
- ・書こうとすることの中心が明確に伝わるよう、目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。（書(1)ウ、伝国(1)イ(カ)）
- ・文や段落相互の関係を示す手掛かりとしての接続後の役割を理解することができる。

○単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
すがたを変える食べ物について、疑問や課題を明確にしながら調べようとしたり、調べて分かったことを報告する文章に書き表したいという思いを膨らませて書こうとしたりしている。	調べた結果やそこから考えたことなどが明確に伝わるよう、例や事例を挙げて説明する文章を書いている。(書ウ)	中心となる語や文を捉え、筆者の考えと事例など段落相互の関係を考えながら読んでいく。(読イ)	文や段落相互の関係を示す手掛かりとしての接続語の役割を理解し、読んだり書いたりする際に用いている。

○食育の視点

- ・身近な食べ物に対する興味や関心を高める。[食事の重要性][食品を選択する能力]
- ・大豆を始め食品加工の良さや昔の人々の努力や知恵を実感する。[食文化][感謝の心]

○指導計画(全12時間)

- 第一次 学習課題や学習の見通しをもち、食べ物に関する本を読む(並行読書)・・・2時間
- 第二次 教材文「すがたを変える大豆」を読み、筆者の考えと事例など段落相互の関係など分かりやすい説明の仕方について考える・・・・・・・・・・5時間(本時4/5)
- 第三次 自分が関心をもった「すがたを変える食べ物」について調べ、段落相互の関係を考えながら食べ物変身ブックを作る・・・・・・・・・・5時間

○本時

- ・目標 大豆をおいしく食べるための5つの事例の関係を考え、その背後にある筆者の意図を理解することができる。
- ・展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	1 「この食べ物なんだ？」クイズをする中で、本時の学習課題をつかむ。 国分さんは、なぜこの順序で説明したのか考えよう	○意図的に事例の順序を変えて示すことにより、説明の仕方の工夫について関心を高める。	
10分	2 国分さんの説明の仕方の工夫について、ワークシートに自分の考えを書く。	○いろいろな事例の順番と比較する中で、国分さんの順番の特徴を捉えられるようにする。 ○いろいろな視点から取り上げた事例の順番について考えることができるよう助言する。	
20分	3 国分さんの説明の仕方の工夫について、話し合う。 ・グループで ・全体で	○発表の内容を黒板に整理する。その際、各段落相互の関係が分かるように、写真やカード(接続語)を用いるなど板書を工夫する。 ○理由を考えさせるときに、題名の「すがたを変える」という言葉に着目させ、説明の順序が大豆の加工の度合いと関係していることに気付かせたり、食品加工のよさやおもしろさについて考えさせたりする。	各段落の内容を考えながら、筆者の説明の仕方の工夫を考えていく。 (ワークシート・発言内容)
5分	4 学習のまとめをする。	○筆者の工夫について考えたことや思ったことを振り返りノートに書かせる。	

・評価及び指導

「十分満足できる」と判断される状況	筆者の伝えたいことと結び付けながら、説明の仕方の工夫やその効果について考えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	大豆のすがたの変化を写真やキーワードで振り返らせたり、違う表現のものと比べさせたりして、説明の仕方の工夫について考えさせる。

2 理科

(1) 理科における食育の推進

小学校の理科における食に関する指導に当たっては、身近な自然や生活の中で自然の事物・現象の性質や働き、規則性が成り立っていることに気付いたり、生活の中で役立てられていることを確かめたりする理科の学習の有用性を感じることによって、食に関する見方を深めることが可能となる。動植物の成長の仕組み・生命の連続性などを学ぶことや、自然を愛する心情を育てることが、食べ物を大切にすることにつながり、人が健康に生きることそのものを学ぶことになり、食育の指導目標の〔食事の重要性〕〔心身の健康〕〔食品を選択する能力〕〔感謝の心〕〔社会性〕について指導することができる。

また、中学校では科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができる力を身に付けることによって、食に対する科学的な判断力に基づいた、健全な生活を実現していく能力を育てることが可能となる。食の安全やバイオ燃料の利用などの自然環境の保全と科学技術の在り方といった食の抱える今日的な課題についても、科学的に学習することができる。さらに、生命や自然環境を扱う学習において、生物の飼育・栽培、生物や生命現象についての観察・実験などを通して、生命を尊重する態度を培うとともに、食育の指導目標の〔食事の重要性〕〔心身の健康〕〔食品を選択する能力〕〔感謝の心〕〔社会性〕について指導することができる。

(2) 食育との関連が図れる領域・単元・題材等

食に関する指導の内容のそれぞれの観点の例示のなかで、理科と関連が図れるものを挙げると、次のものが考えられる。

〔食事の重要性〕 食事は、人間が生きていく上で欠かすことができないものであること。

〔心身の健康〕 様々な食品にはそれぞれ栄養的な特徴があること。

〔食品を選択する能力〕 食品に含まれる栄養素やその働きを考えること。

〔感謝の心〕 食という行為は、動植物の命を受け継ぐこと。

〔社会性〕 自然界の中で動植物とともに生きている自分の存在について考え、環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする事。

小学校では、各学年とも「B 生命・地球」の区分での関連が図れる。内容として、

第3学年 (1) 昆虫と生物……………〔食品を選択する能力〕〔社会性〕

(2) 身近な自然観察……………〔食事の重要性〕

第4学年 (1) 人の体のつくりと運動…〔食事の重要性〕〔心身の健康〕

(2) 季節と生物……………〔食事の重要性〕〔感謝の心〕

第5学年 (1) 植物の発芽、成長、結実…〔食事の重要性〕〔心身の健康〕〔食品を選択する能力〕

(2) 動物の誕生……………〔食事の重要性〕〔感謝の心〕〔社会性〕

第6学年 (1) 人の体のつくりと働き…〔食事の重要性〕〔食品を選択する能力〕

(2) 植物の養分と水の通り道…〔感謝の心〕

(3) 生物と環境……………〔食事の重要性〕〔社会性〕 が考えられる。

中学校では、「第2分野」での関連が図れる。内容として、

(1) 植物の生活と種類……………〔心身の健康〕〔社会性〕

(3) 動物の生活と生物の変遷……………〔心身の健康〕〔食品を選択する能力〕〔感謝の心〕

(5) 生命の連続性……………〔心身の健康〕

(7) 自然と人間……………〔食事の重要性〕〔社会性〕 が考えられる。

(3) 実践事例

- 単 元 名 生命を維持するはたらき
○目 標 消化や呼吸、血液循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察・実験の結果と関連付けて捉えることができる。また、不要となった物質を排出する仕組みがあることについても理解することができる。

○単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
生命を維持する働きに関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探求しようとするとともに、生命を尊重しようとしている。	生命を維持する働きに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識を持って観察・実験などを行い、自らの考えをまとめ、表現している。	生命を維持する働きに関する観察・実験の基本操作を習得するとともに、観察・実験の計画的な実施、結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。	動物の体が必要な物質を取り入れて運搬する仕組み、不要な物質を排出する仕組みなどについて基本的な概念や規則性を理解し、知識を身に付けている。

- 食育の視点 消化の実験や栄養分が吸収される仕組みの学習を通して、動物の体には必要な栄養分を取り入れる仕組みがあることを観察や実験と関連付けてとらえ、人間の生活のエネルギーとなる栄養について理解する。[食事の重要性][心身の健康]

○指導計画(全11時間)

- 第1次 栄養分をとり入れる仕組みはどのようになっているのか・・・5時間(本時2/5)
第2次 栄養分はどのようにしてエネルギーとなるのか・・・2時間
第3次 血液はどのようなはたらきをしているのか・・・4時間

- 本 時
・目 標 唾液の働きで、デンプンが糖に分解されたことを推論することができる。
・展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準	評価方法
5分	1 唾液の働きについて考える。	・小学校で行った唾液の実験方法と、その結果を思い出させる。		
	唾液がデンプンを何に変えているのか調べよう			
25	2 唾液によるデンプンの消化の実験をする。	・実験をするときの注意事項を確認する。 ・対照実験の説明をする。 ・ベネジクト溶液の反応や色の変化について説明する。 ・4本の試験管それぞれの色の変化を観察させ、ワークシートにまとめさせる。		
20	3 本時のまとめをする。	・ワークシートから分かることを考察させる。 ・考察したことを発表させる。 ・友達の意見を聞き、自分が気が付かなかったことをワークシートに記入させる。	・実験結果から、唾液の働きで、デンプンが糖に分解されたことを推論している。(思考・表現)	記述分析 発表

・評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	ヨウ素溶液やベネジクト溶液の反応の結果から、唾液の働きによるデンプンの分解について理解し、理由も含めて分かりやすく説明している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	ヨウ素溶液とベネジクト溶液の働きを再度説明することにより、唾液の働きで糖が分解されることに気付かせる。

3 外国語活動・英語

(1) 外国語活動・英語科における食育の推進

小学校外国語活動においては、現行学習指導要領の内容2(2)に「日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと」とあるように、外国語活動の中で日本や外国の生活や文化等を扱うことを通して、他者や異文化を理解する力を養うことが求められている。

また、中学校英語科においても、外国の文化と自分たちの文化を比較しながらそれぞれの良さを感じ取ったり、日本の伝統や文化を紹介・発信したりする力の育成が求められている。

(2) 食育との関連が図れる領域・単元・題材等

小学校外国語活動の補助教材「Hi, friends!」の中には、自分や友だちの好きな果物等を選択し、フルーツパフェを完成させる活動や、好きなランチメニューを作る活動が紹介されている。家庭科や特別活動、総合的な学習の時間等、他教科・他領域と関連させたカリキュラムを作成し、地域の特産物や郷土料理を紹介したり、相手の健康を考え、栄養バランスのとれたランチメニューを考案したり、発表したりする活動を組み立てることができる。

また、現在、徳島県で主に使用されている中学校英語科の教科書には、「英語で料理」や「英語で茶道」、「日本文化を紹介しよう」といった、外国の（食）文化に触れたり、日本（食）文化の紹介をしたりといった単元・題材が見られる。これらの単元・題材を扱う際に、自分たちの食文化の特徴や地域の食材を用いた料理のレシピ等を紹介することも考えられる。

(3) 実践事例

○単 元 名 スペシャルメニューを作ろう (Hi, friends!1 Lesson9 What would you like?)

○単元の目標

・相手の健康を考え、栄養バランスのとれたメニューを積極的に紹介しようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・食材や料理等の言い方に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

・世界にはいろいろな食文化があることに気付く。【言語や文化に関する気付き】

○食育の視点

・食べ物に興味・関心をもち、いろいろな食べ物の名前を知る。[食事の重要性]

・健康に良い、栄養バランスのとれたメニューを考える。[心身の健康]

・世界にはいろいろな食文化があることを理解する。[食文化]

○単元の評価規準

【コ】相手の健康を考え、栄養バランスのとれたスペシャルメニューを進んで紹介している。

【慣】野菜や果物等の食材名や料理名を尋ねたり答えたりしている。

【気】世界にはいろいろな食文化があることに気付いている。

○単元計画

時	目標と主な活動	評 価			主な使用表現・語彙
		コ	慣	気	
1	○世界にはいろいろな食文化があることに気付く。 ・絵本"Today is Monday" ・料理の出身地当てクイズ			○	・世界にはいろいろな食文化があることに気付いている。 〈行動観察・振り返りカード分析〉 Hint, please. What's this? / It's ~. Where's ○○ from? / It's from ~. など

2	○食材や料理等の言い方に慣れ親しむ。 ・野菜・果物ビンゴ ・料理連想ゲーム	○	・食材や料理等の言い方に慣れ親しんでいる。 〈行動観察・振り返りカード点検〉	Hint, please. What's this? / It's ~. Where's ○○ from? / It's from ~. など
5 (本時)	○相手の健康を考え、栄養バランスのとれたスペシャルメニューを進んで紹介しようとする。 ・世界のお茶クイズ ・スペシャルメニューを発表する。	○	・相手の好みを踏まえ、健康を考え、栄養バランスのとれたスペシャルメニューを積極的に紹介している。 〈行動観察・振り返りカード点検〉	Hint, please. / It's ~. It's from ~. What's this? / It's ~. What would you like? / ○○, please. ○○-san, (this is a) special menu for you. など

○本 時

- ・目 標 相手の健康を考え、栄養バランスのとれたメニューを積極的に紹介しようとする。
- ・展 開

時間	児童の活動	指導者の活動	
		H R T	
2分	・挨拶をする。 Hello. I'm ~. How are you?	・挨拶をする。 Hello,everyone. How are you? I'm ~.	・英語で挨拶し、楽しい授業が始まる雰囲気をつくる。
3	・Let's sing! 今月の歌を歌う。	・児童と一緒に楽しく歌う。	・リズムを感じながら、しっかりと声が出せるようサポートする。
10	・「世界のお茶クイズ」をする。 Hint, please. It's ~.	・世界のお茶に関する情報を与え、種類を当てさせる。 It's ~. / It's from ~. What's this?	・名前、色や飲み方、ピクチャーカード等のヒントを効果的に用いて、興味をもたせる。 green,black,oolong,jasmine, powdered green...
栄養バランスのとれたスペシャルメニューを作ろう！			
20	・前時にインタビューした結果を基に、相手の好みを踏まえた上で、栄養バランスのとれたメニューを考え発表する。 ○○-san, (this is a) special menu for you.	・英語表現を用いることが難しい児童を支援する。 ・中間評価を行い、良かった点を紹介することで、本日のめあてを再確認する。	・児童が自信をもって発表できるように、良かった点を取り上げる。 ◎相手の健康を考え、栄養バランスのとれたスペシャルメニューを積極的に紹介している。 〈行動観察・振り返りカード点検〉
10	・本時の振り返りをし、発表する。 ・挨拶をする。 Thank you. See you.	・振り返りの観点を示し、感想を聞く。 ・良かったところや感想を言う。 You're welcome. See you.	・今後の活動への意欲が高まるように言葉掛けをする。 ・児童の良かった点を具体的にほめ、本単元のまとめをする。

4 音楽

(1) 音楽科における食育の推進

音楽と食育との関わりは深い。例えば学校給食の時間は音楽をかけ、リラックスした雰囲気の中、楽しく給食を食べたり、自分の地元の食材をアピールする作詞・作曲をしたりすることもある。現行の学習指導要領の中には、「国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度を養う観点から学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。」と明記され、自分の育ったふるさとの民謡を大切にし、郷土愛を育む教材の選択が唱えられている。

徳島県民謡の中には、「祖谷の粉ひき唄」「阿波麦打ち唄」などの唄があり、地元で大切に歌い継がれている。これらの民謡は、当時の食文化や人々の生活についても学ぶ教材となる。

音楽と食育を、食育の指導目標の「食文化」の視点で捉えることで、郷土愛や郷土の文化との関わりを学ぶことにもつながると考える。

(2) 食育との関連が図れる領域・単元・題材等

小学校・中学校ともに、地域の民謡から当時の食文化を考えるという視点もあるが、年中行事と音楽を絡めることもできる。3月3日は「うれしい ひなまつり」を歌い、その日の給食のひなあられを食べたり、5月5日は「こいのぼり」を歌い、ちまきを食べたりする。また、クリスマスソングとともに給食に付いたケーキを食べる学校もある。給食時に、ハッピーバースデーを歌い、児童生徒の誕生日を祝うクラスもある。こういった年中行事と音楽は切っても切り離せない。年中行事の中からも、食育の指導目標の「食文化」「感謝」を捉えることができる。

音楽の授業と食育の関連としては、次のような題材が挙げられる。

【小学校】

- 1年生：「わくわく キッチン」「ポンポンポップコーン」「フルーツケーキ」
「うれしいひなまつり」
- 2年生：「クリスマスソングメドレー」「やおやのおみせ」「かぼちゃ」
- 3年生：「茶つき」「おかしのおきな まほう使い」「十五夜さんのもちつき」
- 4年生：「みかんの花さくおか」「ソーラン節」
- 5年生：「こいのぼり」
- 6年生：「地域に伝わる民謡」

【中学校】

- 1年生：「赤とんぼ」「箏曲 六段の調べ」
- 2・3年生上下：「歌舞伎 勧進帳」「世界の諸民族の音楽」

(3) 実践事例 ここでは、小学校1年生の実践例を紹介する。

- 題 材 名 1ねん1くみのポップコーンのうたをつくろう「ポンポンポップコーン」
- 題材の目標 ポップコーンがはじける様子を思い出して、歌ったり、体を動かしたりしながら、拍の流れを感じ取り、リズムを工夫して演奏することができる。

○題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①「ポップコーン」のはじける様子を言葉にしたり、体で表現しようとしていたりしている。 ②範唱や範奏、リズム視唱、言葉のリズムなどに興味をもち、進んで聴いたり拍の流れにのって表現したりしようとしている。	①リズムの違いや言葉のリズムのおもしろさを感じ取りながら、拍の流れにのって表現の仕方を工夫している。	①範唱や範奏、伴奏などを聴いたり、リズム譜を見たりして、拍の流れにのって歌ったり打楽器演奏をしたりしている。

○食育の視点 食べ物に関心をもって楽しく食べると、心と体が豊かになる。〔食事の重要性〕

○学習指導要領との関連 A表現 (1)ア イ(3)イ

【共通事項】 ア(ア)リズム、速度、拍の流れ

○指導計画(全3時間)

第1次 ポップコーンになったつもりで楽曲に合わせて歌ったり、体を動かしたりしよう・・・1時間

第2次 ポップコーンのはじける様子を考え、たとたとたを使ってリズムを作ろう・・・1時間(本時)

第3次 1ねん1くみのポップコーンのうたをつくろう・・・・・・・・・・・・・・1時間

○本時

- ・目標 音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりして、この曲に合う自分のリズムを作る。
- ・展開

時間	学習活動	指導の留意点	評価規準(評価方法)	共通事項
5分	1 「ポンポンポップコーン」をポップコーンになったつもりで歌ったり体を動かしたりする。	○歌に合わせてポップコーンを作った時のことを思い起こさせ、はじける感を表現させる。		
	ポップコーンのはじける様子をリズムで楽しく演奏しよう			
20分	2 「ポップコーン」のはじける様子にあった自分のリズムを「たん」と「たた」を使って作る。	○たんたん たん ・ , たんたた たん ・ , たんたん たた たん の3つのリズムの違いを知り、自分の考えたリズムの組み合わせをワークシートに書かせる。	範唱や範奏、リズム視唱、言葉のリズムなどに興味をもち、進んで聴いたり拍の流れにのって表現したりしようとしている。	リズム拍の流れ
15分	3 リズム打ちをしながら楽しく歌う。	○自分の作ったリズムが打てるように助言し練習させる。	【関-②】(活動の様子や発言の観察)	
5分	4 本時の活動を振り返る。	○今日の学習を進んでできたかカードに記入する。		

・評価及び指導の例

「充分満足できる」と判断される具体的な状況	3つのリズムパターンを組み合わせ、ポップコーンのはじける様子にあった、自分のリズムを作り表現できる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	ポップコーンのはじける様子にあわせて、「たん」と「たた」を組み合わせたリズムを教師と一緒に打ったり、組み合わせたりすることができるよう助言する。

5 図画工作・美術

(1) 図画工作科・美術科における食育の推進

図画工作科・美術科では、表現活動や鑑賞活動を通して、身の回りにある様々な対象・事象から良さや美しさなどの価値や心境を感じ取る感性を育成し、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めることが求められている。

日本の文化には、色や形、材料から生み出される日本独自の様々な文化がある。特に、「和食」は、平成25年にユネスコ無形文化遺産として認定された。「和食」は、食器が重要な働きを担っており、食材の色や形、季節感、食材の盛り付け方法などに応じて食器が工夫されている。また、「和菓子」についても、その色や形に季節感や地域の特色などが生かされている。

こういった身の回りにある食器や食文化について、色や形、材料の視点で表現活動や鑑賞活動を取り入れ、身の回りや地域独特の「食文化」を見直すことで、食育との関わりができるようになる。

(2) 食育との関連が図れる領域・単元・題材等

小学校及び中学校では、発達段階により用具・材料等の違いがあるが、相手に贈ることや他の人が使いやすいといった他者に対する思いや考えを基にした表現（工作、デザイン、工芸）が考えられる。取り扱う題材は、教師が児童・生徒の実態に応じた題材等を工夫することが大切である。

例えば、家庭科で中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の計画について学習した後、メインの献立を美術の中で食品サンプルで制作する。総合的な学習の時間において地域の焼き物の文化について学び、その後で家族が食べる料理を盛り付けるために、料理を引き立てる食器の色や盛り付けに適した食器の形について考え、家族のための食器の焼き物を制作する。

図画工作科や美術科だけで食育を取り扱うことは難しいので、家庭科や総合的な学習の時間をはじめ各教科等と関連させることにより、食育の指導目標の「食品を選択する能力」や「食文化」と関連が図ることができる。

【具体例】

小学校 ○クッキーやさんになろう ○ケーキ屋さんになろう ○おいしそうなお弁当

中学校 ○Let's Try スーパーキャラ弁 ○季節感のある和菓子 ○料理に合った食器

(3) 実践事例

○題 材 名 「Wa！菓子を作ろう」 〈A表現（2）・（3）、B鑑賞〉

○題材の目標

- ・和菓子の色や形、銘（めい）の表現に関心をもち、独自の和菓子の制作について意欲的に構想を練ろうとしたり、表現の材料や道具の使い方を工夫しようとする。
- ・季節感や材料の特性、美しさなどを考え、構想を練ることができる。
- ・形や色、材料や用具の特性を理解し、生かし、表現方法を工夫して表現することができる。
- ・和菓子に込められた作り手の思いやねらいを感じ取ったり、造形的な良さや美しさを味わったりすることができる。

○題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の力	創造的な技能	鑑賞の力
和菓子の形や色，和菓子の銘などに関心をもち，独自の和菓子の制作で意欲的に構想を練ろうとしたり，表現方法や道具を工夫しようとしたりしている。	季節感や，和菓子の味のイメージ，色や造形的な美しさなど，総合的に考え，構想を練っている。	材料の特性を生かし，道具の使い方を工夫するなど，表現方法を工夫して作品を作っている。	和菓子に込められた季節や自然・伝統に対する先人の美意識を感じ取り，造形的な良さや美しさを味わっている。

○食育の視点 季節や年中行事等を取り入れた和菓子づくり〔食文化〕

○指導計画（全7時間）

- 第1次 和菓子を鑑賞する・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- 第2次 オリジナル和菓子の構想を練る・・・・・・・・・・2時間（本時1／2）
- 第3次 オリジナルの和菓子を作る・・・・・・・・・・3時間
- 第4次 互いの作品を鑑賞する・・・・・・・・・・1時間

○本時

- ・目標 自分が表したい季節やイメージを，色彩や形を明確にし，和菓子の具体的な構想を練ることができる。
- ・展開

学習活動	指導上の留意点	学習における具体の評価規準
1 本時の学習目標を確認する。	・和菓子の材料や技法を確認する。	・自分の表したいイメージを色彩や形，材料などの視点から具体化し，アイデアスケッチと言葉で表現している。（ワークシート）
2 自分の決めた季節に関する年中行事や風物を取り入れ，和菓子の構想を練る。	・イメージのメモを基に，季節感や色彩，形，材料などから検討させ，具体的で明確な構想を立てさせる。 ・バランスやアクセントなど構成美の要素を入れるとよいことを指導する。 ・日本の食文化の1つである季節感等を意識した和菓子を考えさせる。	
3 本時の学習を振り返り，次回の学習内容について知る。	・本時の学習で得たことを確認させる。	

・評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	作りたい和菓子の季節感を色彩の組合せで工夫したり，食べやすさを考えて形を工夫したりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	ワークシートを使って思いや考えを聞きアドバイスしたり，和菓子の資料を見せたりしてアイデアを引き出すよう助言する。

6 技術・家庭科（技術分野）

（１）技術・家庭科（技術分野）における食育の推進

学習指導要領においては、学校における食育との関係が深い教科として、中学校の技術・家庭科が挙げられている。特に、技術・家庭科（家庭分野）は、「食に関する指導を行う中核的な教科であり、食生活を家庭生活の中で総合的にとらえるという技術・家庭科の特質を生かし、家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実践するための基礎を培うよう取り組むことが重要である。」と示されている。

一方、技術・家庭科（技術分野）では、食料を生産する立場からの指導が考えられる。食料の生産は、古来から人間が自然と共存しながら培ってきた技術である。食料の生産は、自然の恩恵の上に成り立っている技術であるとともに、この技術には、先人が長い年月をかけて改良・工夫してきた歴史があることを知らせることで、食育の指導目標の「感謝の心」について指導する。また、生物育成の実習においては、肥料や飼料、農薬や薬品の使用について取り上げることから、「食品を選択能力」である食の安全についても指導する。

（２）食育との関連が図れる領域・単元・題材等

内容C「生物育成に関する技術」

（１）ア 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知ること。

ここでは、生物の成長には、光、大気、温度、水、土、田の生物などのいろいろな環境要因が影響することを踏まえ、生物の育成に適する条件と育成環境を管理する方法について知らせる。例えば、作物の栽培では、気象的要素、土壌的要素、生物的要素、栽培する作物の特性と生育の規則性などについて考慮する必要があることや、種まき、定植や収穫などの作物の管理技術、整地、除草、施肥やかん水などの育成環境の管理技術があることなどである。このことにより、食育の指導目標である「感謝の心」として、「食料の生産が全ての自然の恩恵の上に成り立っている技術であること」とともに、「食生活が生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていること」について知らせる。

（２）ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること。

ここでは、目的とする生物の育成を通して、生物の計画的な管理方法について学習する。生産物の品質や収穫量の向上等を目的とした育成計画を立て、実習をさせることにより、「感謝の心」である「食生活が生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていること」について実感させることができる。その際、食料の生産効率の向上のために、肥料や飼料の給与量や使用方法、病気や害虫等の駆除に際しての農薬や薬品の使用についても考える必要があり、「食品を選択能力」である「食品表示など食品の品質や安全性等の情報について関心をもつこと」について指導する。

また、栽培又は飼育する生物を選択するに際しては、その生物に適した気候や環境があることから、地域の風土とともに地場産物について考えさせることにより、「食文化」である「地域の伝統や気候風土と深く結び付き、先人によって培われてきた多様な食文化があること」について指導する。

（３）実践事例

○題 材 名 おでんに適したダイコンをつくろう

○題材の目標 生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

○題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
生物育成に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとするとともに、生物育成に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。	目的や条件に応じて栽培計画を立て、観察を通して捉えた成長の変化への対応を工夫するとともに、生物育成に関する技術を適切に評価し活用している。	生物の適切な管理作業ができる。	生物を取り巻く生育環境が生物に及ぼす影響や、生物の育成に適する条件及び生物の計画的な管理方法等についての知識を身に付け、生物育成に関する技術と社会や環境との関わりについて理解している。

○食育の視点 食生活は、自然の恩恵の上に成り立っており、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力によって支えられていることを知る。[感謝の心]

○指導計画 (全16時間)

- 第1次 植物の栽培方法を知ろう・・・・・・・・・・4時間
- 第2次 ダイコンを栽培しよう・・・・・・・・・・4時間
- 第3次 おでんに適したダイコンをつくろう・・・・・・・・6時間 (本時3／6)
- 第4次 生物育成に関する技術を評価しよう・・・・・・・・2時間

○本時

- ・目標 栽培における技術の問題を明確にし、環境的及び経済的側面などから比較・検討することにより、最適な管理作業を決定することができる。
- ・展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
5分	1 本時の目標を確認する。	○1回目のダイコン栽培を振り返らせ、最適な栽培計画の作成に向けた動機付けを行う。	
	「おでん」に適したダイコンをつくろう		
10分	2 おでんに適したダイコンとは何か考え、収穫時の具体的な目標を決める。	○どのようなダイコンを収穫すればよいかイメージをもたせ、収穫目標をワークシートに記入させる。	
15分	3 ワークシートに、おでんに適したダイコンを収穫するための解決策を考え、その理由を記入する。	○栽培時期、環境、管理方法等をワークシートに記入させ、栽培イメージを高めさせる。 ○前時までの学習で使用した資料を活用させながら、選択した作業とその理由を記入させる。	[工夫・創造] 環境的及び経済的側面から作業内容を比較・検討し、最適な解決策を導き出している。 (ワークシート) (栽培計画表)
15分	4 選択した作業内容とその理由について、班員同士で意見交換を行い、最適だと考えられる栽培計画を完成する。	○意見交換によって、自分と他者の意見の相違点を比較させる。 ○取り入れた他者の考えによって栽培計画表に修正・追加する場合は、色を変えて記入させる。	
5分	5 本時のまとめをする。	○作成した栽培計画表を、次回の栽培で活用することを知らせる。	

・評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	環境的及び経済的側面から作業内容を比較・検討した上で、1回目の栽培経験を基に合理的に解決策の効果を予想し、最適な解決策を導き出している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	必要に応じて助言を行うとともに、栽培サンプルや栽培カードを参考に作業内容や資材を決定させる。

7 特別活動

(1) 特別活動における食育の推進

小学校においては、小学校学習指導要領解説特別活動編の学級活動(2)のキの内容として「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」がある。それには、児童が食に関する知識や能力等を発達の段階に応じて総合的に身に付けることができるように学校教育全体で指導すること、またその中心的な指導の場は給食の時間であることが示されている。さらに、学級活動の時間でも取り上げ、その指導の特質を踏まえて計画的に指導する必要があること、学校給食を教材として活用するなど多様な指導方法を工夫することが求められている。

また、中学校においては、中学校学習指導要領解説特別活動編の学級活動(2)のケの内容として「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」の中で、学校給食の内容については、給食の時間を中心に指導することとなるが、適切な給食の時間の確保とともに、他の学級活動や学校行事、関連教科等でも取り上げて計画的に指導することが大切であると述べられている。

(2) 食育との関連が図れる領域・単元・題材等

小学校学習指導要領解説特別活動編では、給食の時間は、楽しく食事をする事、健康により食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備などに関する指導により、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して望ましい人間関係の形成を図ることをねらいとし、給食の準備から後片付けを通して計画的、継続的に指導する必要があることが示されている。

特別活動で食育を題材とした授業を実践する場合は、学級活動(2)が中心となる。小学校の題材として、本県小教研特別活動部会が刊行した「新・特別活動ハンドブック」では、「楽しい給食」「給食準備の工夫」「配膳の仕方について」「おやつについて」「健康と食事」「感謝して食べよう」を例示している。

中学校学習指導要領解説特別活動編では、小学校の内容からの発展として自己の健康を管理し改善していく資質や能力の基盤を育成することが重要であることから、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯を通じた望ましい食習慣が形成され、食事を通して好ましい人間関係や明るい社交性が育まれるよう指導する必要があることが述べられている。また、家庭との連携や家庭の中でも話し合えるような題材設定が求められている。

また、小学校、中学校ともに学級担任は、学校や地域の実態、児童生徒の発達段階や特質に応じてふさわしい題材を設定することが望まれる。

(3) 実践事例

○題 材 名 「健康に良い食事について考えよう」 学級活動(2)

キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

○題材設定の理由

4年生になると、健康な生活を送るためには好き嫌いをせずに食べることの大切さは理解できている。しかし、給食において、野菜を残そうとする児童は多い。理解はできても実際の行動には結び付きにくい。そこで、好き嫌いを少なくするためにはどうしたらよいかを学級で話し合い、自分が実行できるめあてを考えさせたい。そのめあてを日々振り返りながら実践化させていきたい。

○食育の視点 健康な生活を送るためには、好き嫌いなく食べることが必要であり、自分の食生活を振り返り、よりよい食習慣を形成しようと努力する。[心身の健康]

○第3学年及び第4学年の評価規準

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・表現	集団活動や生活への 知識・理解
評 価 規 準	自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

○事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・題材を知る。 ・アンケートを調査し、結果をまとめる。 ・問題の解決方法を考えておく。	・給食時に献立を題材にして、栄養バランスを考えた食事の大切さについて理解させる。 ・本題材について問題意識を高めるために予告しておく。	【関心・意欲・態度】 ・健康に良い食事について理解し、自分の問題として真剣に受け止めている。 (アンケート調査)

○本 時

- ・ 目 標 自分の食生活を見つめ、栄養のバランスを考えた食事の大切さに気付き、健康に良い食事をする事ができる。
- ・ 展 開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
導 入	1 好き嫌いアンケートを基に食事に関わる学級の問題点を話し合う。	・アンケートを考察することで、健康に良い食事についての関心をもたせる。	【思考・判断・実践】 友達の見解を参考にしながら、健康に良い食事について考え、これからの食事についてのめあてをもち、進んで実践している。 (めあてカード・観察)
展 開	2 好き嫌いの原因について話し合う。	・解決策を考えることができるように原因をしっかりと考えさせる。	
	3 好き嫌いを少なくするためにはどうしたらよいか話し合う。	・健康に良い食事をするための解決策について必要に応じて助言する。	
終 末	4 健康に良い食事をするための自分のめあてについて考える。	・具体的な目標を書くことができるように助言する。	
	5 考えためあてについて発表し合う。	・各自のめあてを賞賛することで、実践への意欲を高める。	

Ⅳ 研究の成果と課題

食育は学校教育全体を通して実践しなければならない課題である。今回の研究では、関連性が比較的低いと考えられている教科等においても、食育と関連している指導内容を取り出し、「食に関する指導の内容」と照らし合わせ、指導者が「食育の視点」を意識して、これまでの教科等の授業を実践することができるような実践例を作成した。

さらに今後は、これらの実践例についての検証を行うとともに、継続して各学校における食育の実践に役立つ資料や指導案、教材の作成等、様々な観点から機会を捉えつつ、今後とも取り組みたい。

Ⅴ おわりに

食は人間が生きていく上での基本的な営みの一つである。特に、成長期にある子どもにとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすものであり、極めて重要なものである。

本研究が活用され、各学校において、発達段階に応じた食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるための食育が一層推進されることを願うとともに、今後も引き続き、学校における成果や課題に目を向け、支援の在り方について一層の充実を図っていきたい。

参考文献

- ・文部科学省「食に関する指導の手引き ー第一次改訂版ー」平成22年3月
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 各教科等編」平成20年8月
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 各教科等編」平成20年9月
- ・徳島県教育委員会「徳島県学校食育指導プラン す・だ・ち」平成20年3月